

JOMF 派遣医師便り (2013. 9)

◆マニラ◆

2013年8月18日の台風・洪水災害、 “自然の脅威”、“人々の力”そして“日常生活の大切さ”

マニラ日本人会診療所
菊地宏久

2013年8月18日から数日間、巨大な台風雲がフィリピン全土に大雨を降らせました。マニラ首都圏の一部でも水位は腰上まで高くなり道路は冠水しました。何かできることがあるのではと思い、8月25日に妻と二人で災害地区へ向かいました。

昨年同時期に訪れたモンテンルパとマリキナ地区では今回も大きな被害がありました。まず昨年避難所だったモンテンルパのBayanan地区の学校や施設へ直行しました。“道路の冠水はすでに復旧し、避難者はすでに自宅に戻れた”とのことで、ひとまず安心しました。また昨年は町全体が腰上まで冠水し、住民たちがボートで移動していたTunasan地域では、排水溝が整備され、道もコンクリートに舗装されて見違えるようになっていました。「今回の洪水では水はけが非常に速く被害が少なかった」と住人たちが話していました。「環境改善によりレプトスピラ症*や破傷風**の発症も予防されるだろう」と現地の学校関係者は話していました。また昨年は川べりに避難所が密集していたCupang地区でも人々が日常生活を取り戻していました。

その後、河川が氾濫したマリキナ地区へ行きました。川が大きく蛇行した堤防には川水があふれ上がり、ゴミと泥水で家の2階まで覆われ、水が引いてきたのは前日だったとのことでした。訪れた8月25日には氾濫した水量はかなり少なくなりましたが、堤防は泥水で覆われ、雨が降る中を作業員が泥を再び川の中にかき出す仕事をしていました。働いている人々の中には裸足で作業をしている人もおり、ここでもレプトスピラ症や破傷風などの感染症が懸念されました。

雨はさらに激しく降り出しましたが、作業員たちは土砂降りの雨の中で仕事を続けていました。そのとき妻が突然、作業をしている人たちの方へ向かって走り出しました。妻は「手伝うわ」と言い、川べりの土手をどんどん走り降りていきました。そして作業員達の中に入って、土手の上まで押し寄せられた泥水やゴミを熊手で掃き出す仕事を手伝い始めました。作業員たちは初めは驚いて見ていましたが、妻の本気さを感じてか、一緒になって作業を続けてくれました。最後には消防用のポンプのホースを使いながら一緒に圧力をかけて放水・清掃作業をしたり、ヤンマー工作機（泥かき機械）をぐいぐい押し動かして、重い泥水を掃き出す仕事も手伝わせていただきました。

夕暮れのうす暗くなる頃には雨は小降りになってきました。大きな女神像が見守るマリキナ川岸辺へ向かいました。その付近では2階の高さまで冠水したそうです。川べりの食堂の人たちが泥で汚れた店内の掃除をしながら、「普段通りにお客さんが来てくれることが何よりもうれしい」と言っていました。

被災されている方々の現状を肌で感じ、“自然の脅威”、“人々の力”そして“日常生活の大切さ”を痛感しました。

日本でも9月中旬に上陸した台風18号により甚大な豪雨・突風被害を受けました。被災した方々の一日も早い復興をお祈りいたします。

2013年9月21日記

* レプトスピラ症：ネズミなどの保菌動物の尿に汚染された水や土壌から皮膚・粘膜を通し感染する細菌感染症。症状は発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、血尿など。重症の場合は死に至る。

* * 破傷風：創傷面から破傷風菌が感染することによって起こる。舌のもつれ、口が開きづらい、飲み込み困難、全身痙攣などの症状が起こる。重症の場合は死に至る。